

2023年度  
一般推薦・社会人I期（健康科学部）  
小論文（100点 90分）

慢性あるいは脳疾患によって、いったん正常に発達した「記憶」「学習」「判断」などの脳の知的機能が持続的に低下し、日常生活や社会生活に支障をきたす状態を認知症という。我が国では2019年に厚生労働省がとりまとめた「認知症施策推進大綱」において、「共生」と「予防」を基本理念とした認知症対策が推進されている。

問1 図1および表1を参照し、2020年から2035年までに認知症患者数はどのように変化すると考えられるか。図1および表1から分かることを具体的な数字を引用しながら説明し、あなたの考えを500字以上600字以下で記述しなさい。

問2 「共生」とは、認知症の人が、尊厳と希望を持って認知症とともに生きる、認知症があってもなくても同じ社会でともに生きる、という意味である。このような社会を実現するために、どのような取り組みが必要か。取り組みの必要性とともにあなたの考えを300字以上400字以下で記述しなさい。

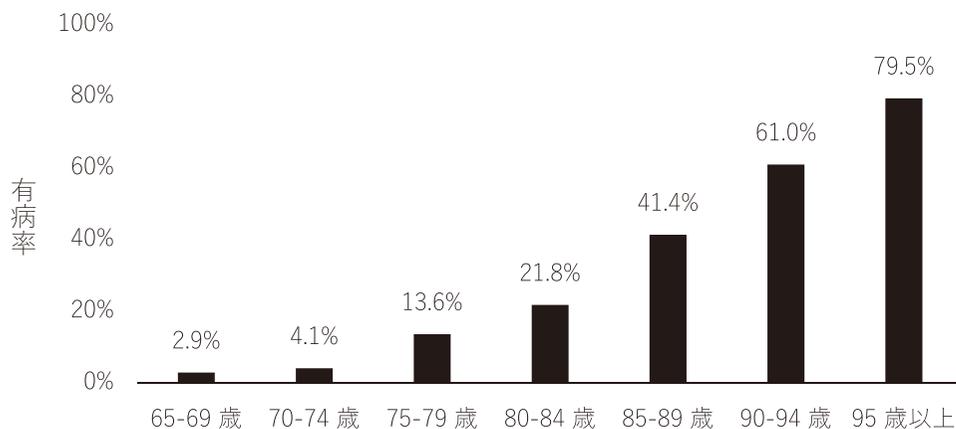


図 1. 年齢階級別の推定認知症有病率

有病率とは、ある一時点において疾病を有している人の割合をいう。例えば、ある時点のある集団 100 人のうち 1 名が認知症である場合、その集団の認知症有病率は 1%となる。

厚生労働省 認知症対策総合研究事業「都市部における認知症有病率と認知症の生活機能障害への対応」より作成

表 1. 高齢者人口の推移 (2020 年～2035 年)

年次	総人口 (万人)	高齢者人口 (万人)			
		65 歳以上	うち 70 歳以上	うち 75 歳以上	うち 80 歳以上
2020	12573	3618	2791	1871	1160
2025	12254	3677	2961	2180	1331
2030	11913	3716	2969	2288	1569
2035	11522	3782	2971	2260	1629

総務省統計局「統計からみた我が国の高齢者」より作成